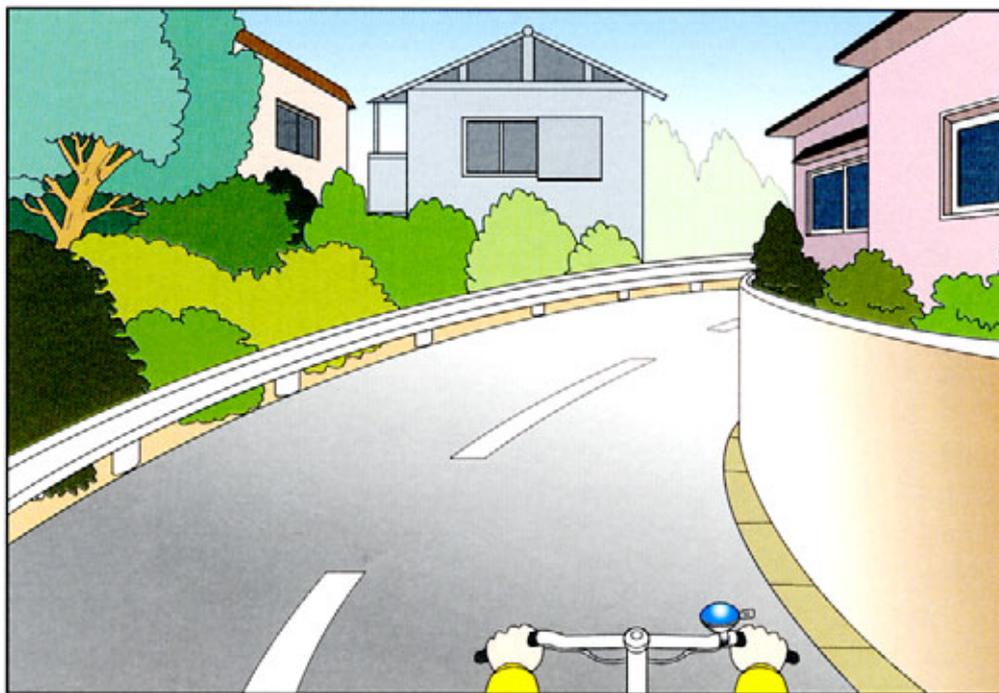


【5】「右側通行の危険」

見通しが悪いカーブを右側通行しています。
どんな危険が予想できますか？



学習のポイント

①「しっかり見る」という観点

前からやってくる自動車は当然道路の左側（自転車から見れば道路の右側）を走ってくるので、右カーブでは前からやってくる自動車をぎりぎりまで発見することができない。どの位置ならば早く発見できるのかも考えさせる。

②「しっかり見せる」という観点

右側通行では相手を発見するのが遅れるということは、相手からも発見されにくいということである。

③「相手」側からの観点

対向車両は前方から自転車 coming しているなどということは全く予測していない。また、発見できたとしても対向車両から見ると自転車は塀や植え込みの陰から急に現れるように見え、発見や回避措置が遅れ衝突する危険性が高い。

④「安全のための行動」

常に道路の左側に沿って走行することが大切である。特にS字状のカーブでは、ショートカットしようとするとうり側通行になってしまうことがあるので注意が必要である。

1 解説

(1) 交通状況の読みとりと予想される危険

あなたは、右へカーブしている道路を自転車ですり側通行している。道路の左右にはブロック塀や建物・植え込みなどがあり、たいへん見通しが悪くなっている。

この状況から予想される危険は次のとおりである。

- ① 前方から対向車両が来て、正面衝突する。
- ② 前方から歩行者や自転車があらわれ、相手に被害を与える。

(2) 予想される危険の回避方法と事故防止のための心構え

この場合は自転車を運転するあなたが、左側通行を守らず少しでも早く行こうと近回りすることから、このような危険な目にあうことになる。

そこで、このような危険にあわないように次のような態度や行動が重要である。

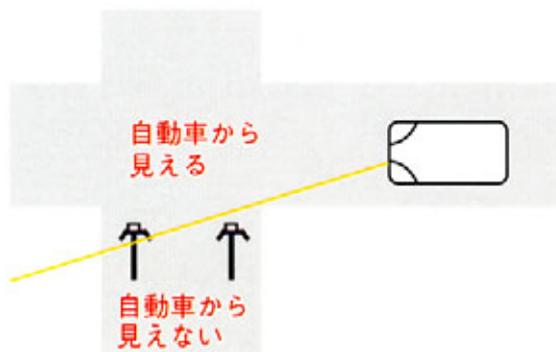
- ① 定められたルールを守り、確実に左側通行をする。(自転車は車両の一つである)
- ② 見えない所には必ず車両などが来ているかもしれないという意識をもつ。
- ③ 見通しが悪い右カーブで右側通行をすると対向車両からは発見が遅れ、回避措置がとりにくいことを知っておく。

(対向車両は左側通行しているので自転車がルールを守って左側を走っていれば早く見つけられるが、右側通行をしていると遅くなる。)

3 このような場面で起こった事故例

午後4時頃、小学校4年生の男子が友達と自転車で併走していた。一人は道路の左側を、そしてもう一人は右側を通行していた。見通しが悪いゆるやかな右カーブにさしかかった時、対向車両が突然現れ、右側通行していた自転車は避けきれずに正面衝突して死亡した。対向車両が左側通行していた方の自転車に先に気付き、安全のため、左側へ少し進路を変えたことが事故を大きくしてしまった悲惨な事例である。

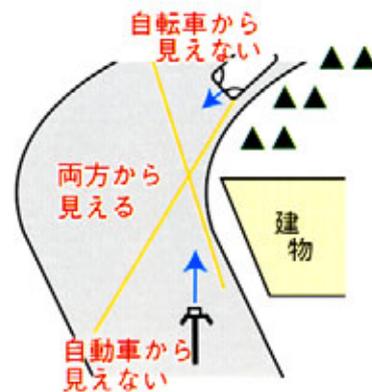
その他右側通行をすることで起こる事故には、カーブだけでなく下の図のような場面もある。



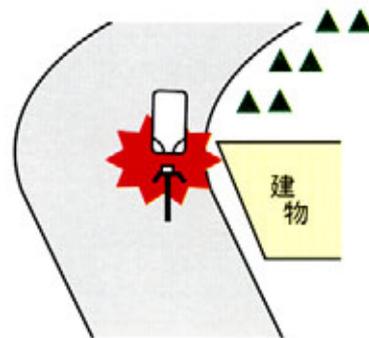
自転車がルールを守って左側を走っていれば、自動車からの発見も速く回避措置がとりやすいが、右側通行しているために運転者、自転車走行者共に発見が遅れ、衝突につながる。この場合、自転車が走っている道が下り坂であると、スピードが落とすにくくさらに事故につながり易くなる。

2 交通の場面の解説図

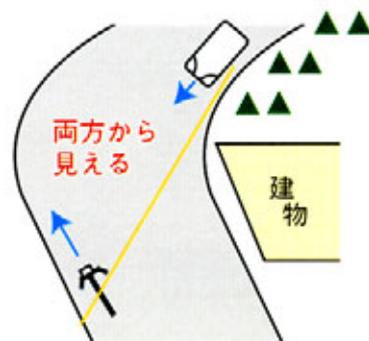
(1) 事故寸前の場面



(2) 事故が起こった場面



(3) 安全に行動した場合の場面



〈事故統計〉

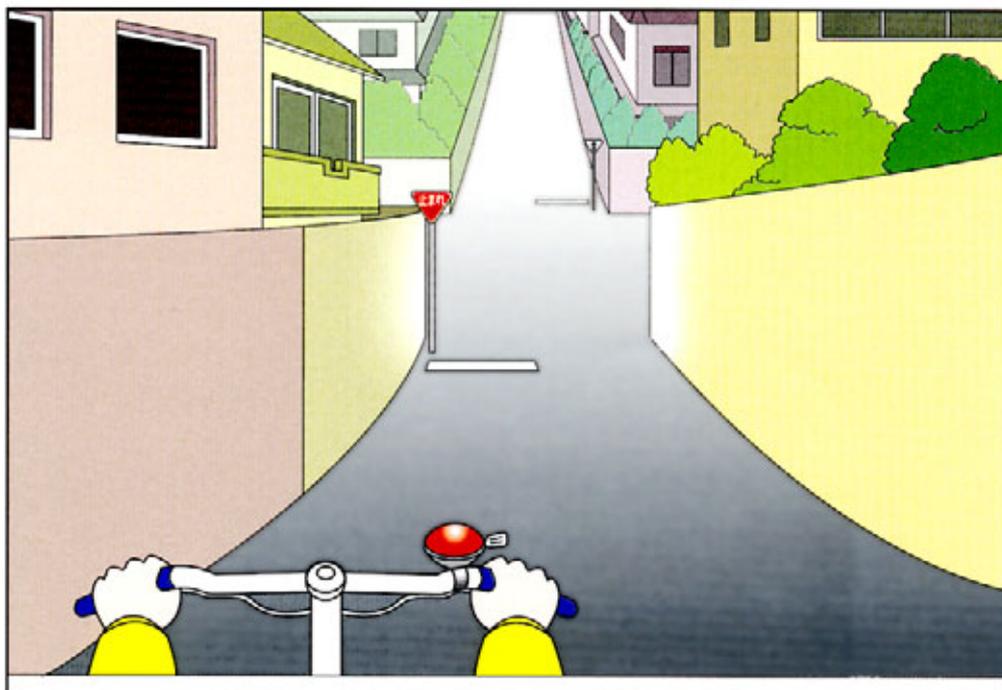
・平成12年中の事故で、右カーブで自転車に乗っていて、前から来た自動車、オートバイ、自転車と衝突した人の数。

	全体	右側通行違反のあった人
右カーブ	624人	210人 (全体の約34%)
直線路	3,441人	557人 (全体の約16%)

特に右カーブでは右側通行が危険であることを示している。

【6】「一時停止無視の危険」

前方に一時停止の標識がある下り坂を走行しています。
どんな危険が予想できますか？



学習のポイント

①「しっかり見る」という観点

一時停止の標識や停止線は、その四つ角（小さな交差点。以下同じ。）は見通しが悪く危険であることを示している。従って、こういう場所でこそ、しっかり止まって左右を確認することが必要である。

②「しっかり見せる」という観点

あなたと同様に相手からもあなたを見つけにくいので、まずは止まって、あなたを見せることが重要である。

③「相手」側からの観点

相手側の車両や歩行者は「一時停止側は必ず止まるものだ」または「止まるだろう」と思いこんでいるので、あなたが一時停止しなければ、相手の危険回避措置が遅れる。

④「安全のための行動」

一時停止の標識がある四つ角では必ず四つ角の手前で一時停止し、左右の安全確認をしてから進む。標識がない見通しが悪い四つ角でも同様の注意が必要である。

1 解説

(1) 交通状況の読みとりと予想される危険

あなたの乗っている自転車は住宅街の見通しが悪い四つ角に近づいている。両側に塀や建物があり、視界が遮られているため、交通の様子が分かりにくい状況である。四つ角には一時停止の標識が見える。

また、あなたが走っている道路は下り坂であり、スピードが出やすく交差点の手前で停止しにくい道路である。

この状況から予想される危険は次のとおりである。

- ① スピードを落とさず交差点に進入し、走ってきた車両と衝突する。
- ② スピードを落とさず交差点に進入し、歩行者や自転車に衝突する。
- ③ スピードを落とそうとしても下り坂のため止まりきれず交差点に進入し、車両等と衝突する。

(2) 予想される危険の回避方法と事故防止のための心構え

このような場面では、自転車に乗っているあなたが、すぐに危険を回避できると自分の運転に過信したり、「来ていないだろう」と自分勝手な判断をしたりすることが事故につながる。

そこで、このような危険にあわないように次のような態度や行動が重要である。

- ① 自転車は車両であるので、自動車と同じように、一時停止標識があるところでは必ず一時停止をする義務がある。
- ② 交差点に近づいたら、スピードの出し過ぎに注意し、早めにブレーキをかけながら交差点の手前で確実に停止する。
- ③ 左右の交通を確認してから進むようにする。
- ④ 一時停止になっていない側の車両や歩行者は、あなたが止まってくれるものだと思っていることを認識しておく。

一時停止の標識は、その交差点は見通しが悪く、よく事故があるから設けられている。これを無視して交差点に進入することは、即「死亡事故」につながる危険な乗り方であり、常に見えていない所には車両がやってくるかもしれないと予想しておくことが大切である。

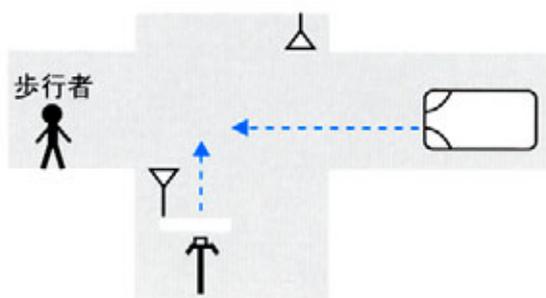
3 このような場面で起こった事故例

小学校6年生の男子が小雨が降る朝8時頃、自転車乗用中に一時停止しようとしたが路面が濡れていてスリップし交差点内へ飛び出し、自動車にはねられ死亡した。路面状況に気を配るだけでなく、普段からブレーキの効き具合を点検しておくことも命を守る大切な心構えである。

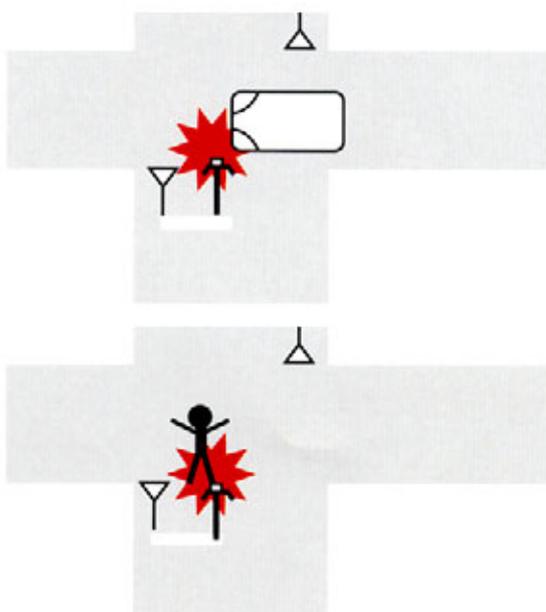
その他、一時停止標識がある場合はもちろん、ない場合でも、見通しが悪い四つ角では前方の交通に注意を払い、一時停止・左右確認を行うことが大切である。

2 交通の場面の解説図

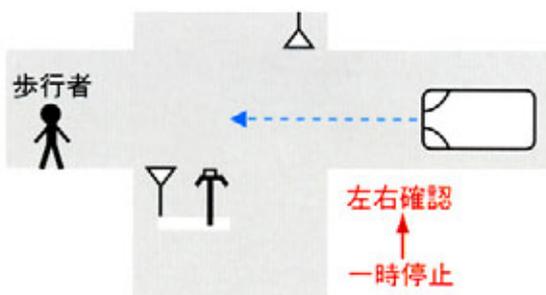
(1) 事故寸前の場面



(2) 事故が起こった場面



(3) 安全に行動した場合の場面



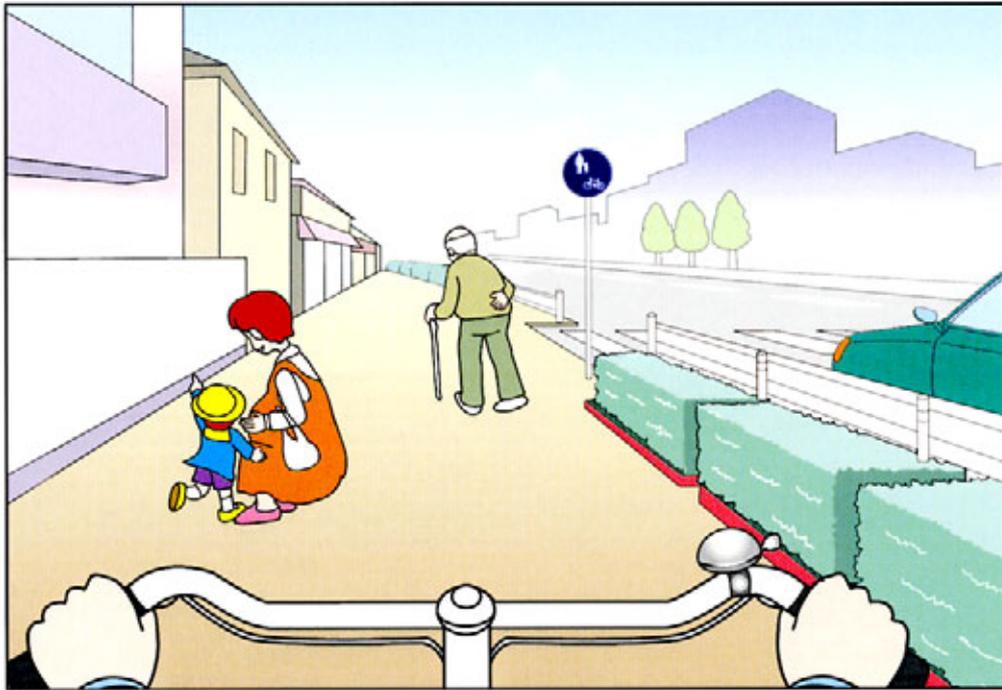
〈事故統計〉

・平成12年中の、自転車乗用中に一時停止無視のため事故を起こした人数。

未就学児童	322人
小学生	2,192人
中学生	1,649人
全年齢	12,676人

【7】「歩道走行の危険」

自転車通行可の歩道を走行しています。前方には幼児を連れてお母さんとお年寄りがいます。
どんな危険が予想できますか？



学習のポイント

①「しっかり見る」という観点

歩道上では、歩行者は急に向きを変えたり、走り出したり、立ち止まったりするので、歩行者の様子をよく観察することが必要である。

②「しっかり見せる」という観点

「自転車通行可」の歩道だからといって歩行者をかわしながらスピードを出して運転することは危険である。自転車は音も立てないので歩行者が気づきにくい。どうすれば、歩行者に気付いてもらえるのかを議論させる。

③「相手」側からの観点

歩行者は歩道は歩行者のものであると安心しきっている。歩行者が自転車に気付いたとしても、自転車の速度が速いと、どう避けたらよいかを判断する余裕が無く、間違った行動をしてしまうことがある。

④「安全のための行動」

歩行者のいかなる行動に対しても対処できるように徐行して走行し、必要があれば一時停止したり、自転車を押して歩くようにする。

1 解説

(1) 交通状況の読みとりと予想される危険

あなたは、自転車通行可の歩道を自転車で走行している。歩道の右側には花だんやガードレールがあり、左側は塀になっていて、歩行者を避ける場所が狭くなっている。

前方には幼児を連れてある妊婦と高齢者がいる。この人たちは素早く安全な行動がとれず、危険に対する対応が遅れがちである。

この状況から予想される危険は次のとおりである。

- ① 幼児の予期せぬ動きに対応できず衝突したり、幼児を追うお母さんが道を塞ぎ、逃げ場がなくなり衝突したりする。
- ② 向こう側を向いている高齢者は耳が聞こえにくく、自転車が近づくのに気付かず、急に方向を変え衝突する可能性がある。
- ③ 横断歩道を横断してきた歩行者と衝突する。

(2) 予想される危険の回避方法と事故防止のための心構え

このような場面では、まず自転車で歩道を我が物顔で走る心を反省しなければいけない。歩道は歩行者のためのものであり、車両である自転車は歩行者にとって危険な凶器になりうることを頭に入れておく必要がある。

そこで、このような危険を生じないように次のような態度や行動が重要である。

- ① 無理に歩行者をかわしたり追い抜こうとせず、歩行者の通行を妨げることには、一時停止をする。
- ② 歩行者に対する迷惑や事故の危険性を予想しながら車道側を徐行する。
- ③ 危険回避のために歩行者の近くでベルなどを鳴らして驚かせないようなやさしい走行をする。

3 このような場面で起こった事故例

- 薄暮時や夜間に無灯火で歩道を走行し、歩行者に衝突する事故
- 体に障害のある人に対する事故
健常者よりも目や耳に障害のある人は、外から情報を十分に取入れることができず危険に対応できない。脚に障害のある人は危険を察知できても素早く対応することができない。
- ベルを鳴らすことで歩行者が急に進路を変えたり立ち止まったりして衝突する事故
- 反対側からも自転車が来ており、歩行者があなたの自転車に気付いていない場合の事故
- 歩行者を避けるためにあなたが車道に出て車両と接触する事故

〈事故統計〉

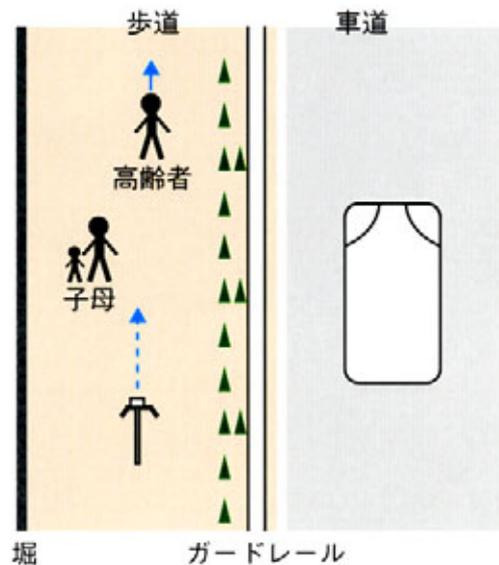
・平成12年中の事故で、歩道歩行中に事故を起こした自転車乗用中の人と、衝突された歩行者の年齢と人数。

	自転車に乗っていた人の数	自転車と衝突した歩行者の数
未就学児童	2人	49人
小学生	25人	38人
中学生	68人	6人
65歳以上	43人	190人
全年齢	697人	697人

未就学児童や65歳以上の高齢者では、衝突される側の比率が非常に高い。

2 交通の場面の解説図

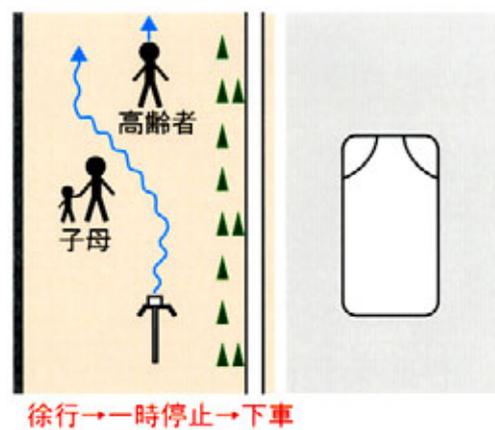
(1) 事故寸前の場面



(2) 事故が起こった場面

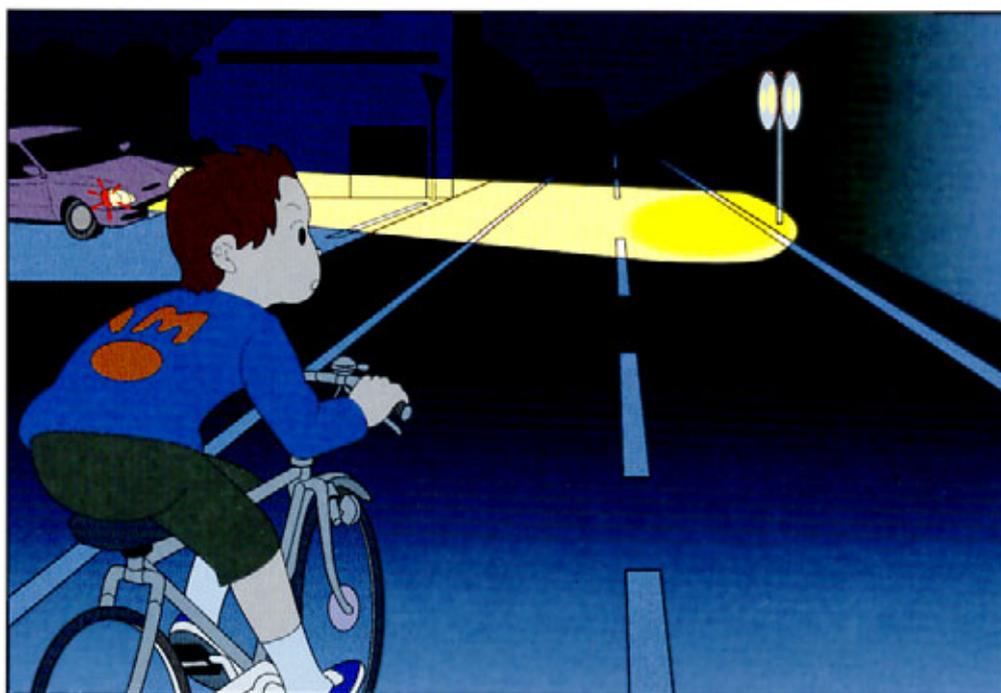


(3) 安全に行動した場合の場面



【8】「無灯火運転の危険」

夜、ライトをつけずに自転車に乗っています。交差点に近づいてきましたが、あなたはそのままのスピードで走行しています。どんな危険が予想できますか？



学習のポイント

①『しっかり見る』という観点

薄暮時や夜間などに自転車で走行するには、ライトを点灯し道路上の障害物や異状を確認する必要がある。

②『しっかり見せる』という観点

夜間、自転車のライトをつけて走るとは、車両や歩行者から自転車の存在を認識される大切な手段である。

③『相手』側からの観点

自転車から車両はよく見えていても、無灯火で走る自転車は車両からほとんど見えず認識されない。また、点灯している場合でも、対向車がある場合はそのライトがまぶしくて、運転者は自転車で走行中の者や歩行者を見落とす場合がある。

④『安全のための行動』

自転車も車両の一つとして夜間は必ずライトをつける。

1 解説

(1) 交通状況の読みとりと予想される危険

あなたは夜間、自転車を無灯火で乗っている。前方には左から交差点に近づいてきている自動車とそのヘッドライトの光が見えている。そして、カーブミラーにもその光が映っている。自動車はこのT字路を自転車の方へ右折しようとして方向指示器を出している。あなたは自分が走っている道路は優先道路であり、また、自動車の運転者からあなたは良く見えていると思い、自動車の方が止まるだろうと判断し、スピードを落とそうとしていません。

この状況から予想される危険は次のとおりです。

○自動車の運転者は、自転車に気付かずに出会い頭に衝突する。

(2) 予想される危険の回避方法と事故防止のための心構え

この場合は、無灯火であるあなたが他の車両や歩行者からどのように見られているか、気付いていないために、このような事故にあう危険性が高まる。

ライトをつけることは路面を照らす役割と同時に、自らの存在を他の通行車両や歩行者に知らせるという大きな意味がある。そのことが自らの命を守ることににつながる。

そこで、このような危険にあわないように次のような態度や行動が重要である。

- ① 夜間は、車両の一つとして必ずライトをつけるようにする。
- ② 無灯火の自転車は車両から発見されにくく、何も来ていないと判断されてしまうことを知っておく。
- ③ 特に夜間は交差点の手前では減速し、車両との衝突を避ける。

3 このような場面で起こった事故例

特に相手が歩行者の場合、歩行者がライトなどを持っていない限り、自転車も歩行者が来ているなどとは思わない。そこで、お互いに発見できないまま衝突することになり、大きな事故につながるだけでなく、この場合には加害者となってしまふ。

正面から自動車がやってくる場合、あなたには自動車のライトが明るく見えるので、自動車を運転している人にも、あなたが良く見えていると思うだろう。だが、運転者が対向車両とすれ違うときには、対向車両のヘッドライトでまぶしくあなたを見落としてしまうことがある。

(例) 夕方暗くなって小学5年生が右端を自転車で走っていたところ、前方から自動車が自分のほうに寄ってきてはねられてしまった。これは、運転者が無灯火の自転車に気づかず、対向車両を避けて少し左に寄ったことによる事故である。

2 交通の場面の解説図



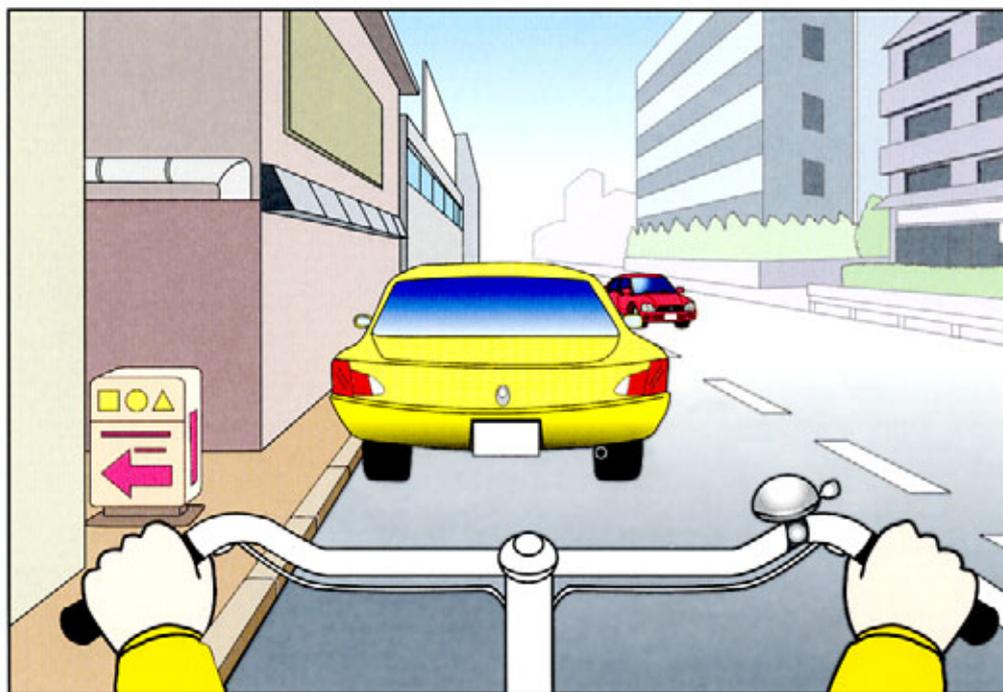
〈事故統計〉

・平成12年中にライトを点けずに走行したために事故にあった自転車乗用中の人数。

未就学児童	0人
小学生	10人
中学生	47人
全年齢	408人

【9】「停車中の車両脇の走行の危険」

停車している自動車の横を追い越そうとしています。
どんな危険が予想できますか？



学習のポイント

①【しっかり見る】という観点

停車車両を追い越すために道路の中央に出る前に、前方からの車両や、後方からの車両の確認だけでなく、停車車両の車内の様子もよく見る（車両から降りようとしていないか、車両を発車させようとしていないか）。

②【しっかり見せる】という観点

対向車両・後続車両がある場合は一時停止し、やり過ごす意志をはっきり示す。

③【相手】側からの観点

停車車両から降りる人は、後方の交通の確認をしないままドアを開ける場合がある。また、停車車両のかけになって対向車から自転車は見えない。さらに、後続車両は前方に停車車両があるときにはあなたと同じように停車車両を追い越そうとしている。

④【安全のための行動】

停車車両の様子に気を配り、対向車両及び後続車両の確認をしてから側方を徐行することが大切である。

1 解説

(1) 交通状況の読みとりと予想される危険

あなたの方には停車車両がある。左側には縁石があり歩道に入れないため、停車車両の右側を追い越そうとしている。

この状況から予想される危険は次のとおりである。

- ① 後続車両も同様に停車車両を追い越そうとしているので、自転車が急に進路を変更すると、後続車両から追突される。
- ② 停車車両の脇を通過している時に、降車のために急に右側のドアが開き、そのドアに衝突する。
- ③ 前方から対向車両が来た場合には、逃げ場がなくなって衝突する。

(2) 予想される危険の回避方法と事故防止のための心構え

このような場面では、他の交通を意識せず、自己本位な運転をすることが大きな危険につながる。

そこで、このような危険にあわないように次のような態度や行動が必要である。

- ① 一時停止し、後方と前方の安全を確認してから、停車車両内の様子をうかがいながら通過する。
- ② 歩道へ入ることができる所であれば、無理をせず安全に歩道を押して歩く。

3 このような場面で起こった事故例

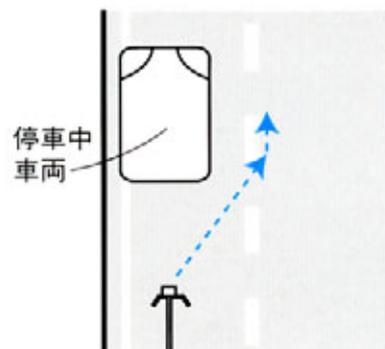
午後3時頃、小学校3年生の女子が自転車走行中に道路を塞いで駐車していたダンプカーを避けようとして対向車線にはみ出し、対向してきたフォークリフトにひかれ全身打撲で死亡した。ダンプカーは駐車禁止区域に駐車しており逮捕されたが、失われた命が戻ってくるわけではない。

その他にも、

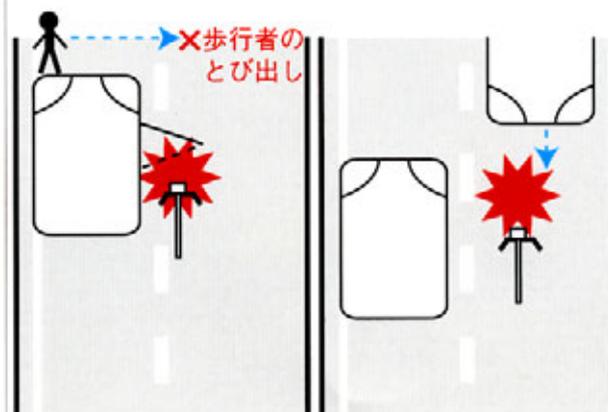
- 停車車両の向こう側から飛び出してきた歩者と衝突する事故
- わずかに空いている車両の左側を通過した時に急に左ドアが開き衝突したりする事故
- 停止している自動車が急に発進し接触する事故などがある。

2 交通の場面の解説図

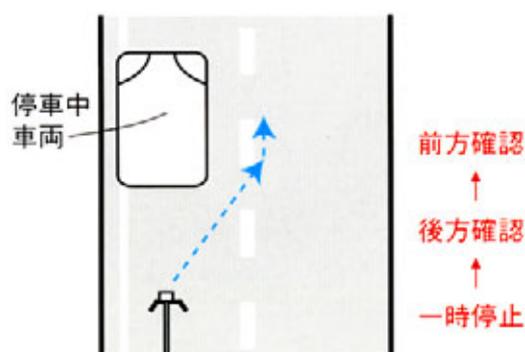
(1) 事故寸前の場面



(2) 事故が起こった瞬間



(3) 安全に行動した場合の場面



〈事故統計〉

・平成12年中に自動車が開けたために事故にあった自転車乗用中の人数。

未就学児童	9人
小学生	60人
中学生	87人
全年齢	2,814人